

第3章 第2次計画における取組み 成果と課題

I 家庭・地域

1. 読書へのきっかけづくり

(1) 主な取組み

- ① 親子参加型の講演会、市内在住のさまざまな分野の人材による講演会などの催しを地域の協力を得て開催
- ② 読書に関する情報を中高生が自ら発信できる場づくりを充実
- ③ 子ども会・町内会など地域の人々やボランティアと協力しておはなし会を開催
- ④ 保護者・子どもにかかわる大人に向けて絵本の読み聞かせ、読書・わらべうたについての情報提供・講座の開催
- ⑤ ブックスタート事業の実施
- ⑥ 幼稚園・認定こども園・保育園での絵本の読み聞かせ、本の紹介の充実
- ⑦ 子育て支援サークルや保育園・幼稚園、子育て支援センター、子ども会館・子どもの家などへのおはなし会などの訪問サービスの実施とPRの充実
- ⑧ 地域の私設図書館（地域文庫・家庭文庫）との連携

(2) 成果

【著者を囲む会「内田麟太郎氏」】

図書館と地元出版社銀の鈴社のコラボ企画「本のたんじょうにたちあおう」で校正ゲラ段階での感想を募りました。その感想をはさみこんだ詩集が出版されたことを記念し、著者を囲む会が実現しました。

【寄贈車「ぶっくん」命名記念のおはなし会】

図書館に寄贈していただいた車に市内在住の長野ヒデ子氏に絵を描いていただいたことを記念し、愛称を募集しました。その命名記念に長野氏によるおはなし会を行いました。



(長野氏によるおはなし会)



(図書館カー「ぶっくん」)

【和歌山静子氏講演「戦後70年の今、子どもたちに伝えていきたい!」】

絵本作家、和歌山静子さんとは、5歳の時に函館で、終戦を迎えました。ご自身の戦時中の体験を子どもたちに伝えることをライフワークにと、ご近所の子どもたちに語っています。「戦後70年 子どもたちに伝えて生きたいこと」をテーマにおはなしいただきました。

【市内の生徒によるポップ大賞を開催】

ポップ大賞のイベントを定期的で開催し、市内の小学生、中高生におすすめの本のポップを作成していただきました。寄せられたポップを展示し、来館者による投票を行ったあと、1位から3位までと中央図書館長賞の作品を各館にて巡回展示を行いました。



(ポップ大賞募集)



(ポップ大賞発表)

【図書館以外でのおはなし会】

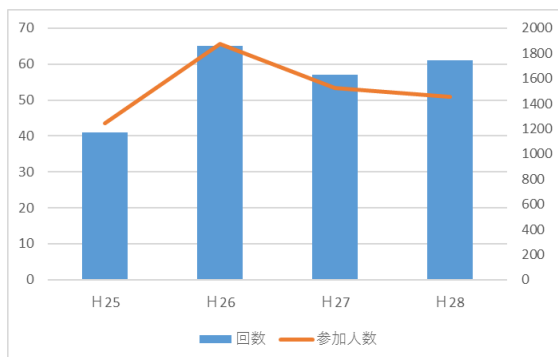
図書館が遠い地域や、地区で行われている子育て広場などでのおはなし会や、わらべうたであそぼう、などの会を行いました。



(材木座地区社会福祉協議会：赤ちゃん広場での訪問サービス開催)

平成28年度主な訪問先実績：だいいち子どもの家、材木座地区社会福祉協議会（赤ちゃん広場）、せきや子どもの家、障害児活動支援センター、わくわくクッキングなど

(訪問サービスの回数と参加人数)



	回数	参加人数
平成25年	41回	1241人
平成26年	65回	1872人
平成27年	57回	1523人
平成28年	61回	1453人

【子どもと本にかかわる大人へ絵本などの講座開催】

子どもと本にかかわる大人の方や、ボランティアグループからの依頼に応じています。

講師派遣	回数	参加人数
平成25年	8回	142人
平成26年	4回	51人
平成27年	5回	69人
平成28年	10回	126人

主な講座内容：絵本・紙芝居の読み聞かせ講座、わらべうた・てあそび講座、ブックトーク、修理体験など

【ブックスタート事業の実施】

平成17年度から開始したブックスタート事業も定着してきました。検診時の参加率は年によって変動があるものの、ブックスタートパックの受取率は例年約90%を超える高い受取率となっており、多くの方に絵本をとおして、赤ちゃんと一緒に過ごす時間を持っていただけました。

	参加率	受取率
平成25年	84%	96%
平成26年	81%	96%
平成27年	78%	94%
平成28年	80%	90%



(3) 課題

- 市内在住の絵本作家のご厚意で講演会を実施することができましたが、継続して企画をたてていくのが難しい状況です。
- 中高生の図書委員による本の紹介パネル展示も定着してきましたが、参加校が一部に偏っている傾向があるため、さらに多くの方に参加してもらう仕組みづくりが必要です。
- 講師の派遣や講座の開催を行っていますが、講師を担える人材を育てていく必要があります。
- ブックスタート事業は軌道に乗っていますが、事業の継続にはおはなしボランティアの協力が欠かせず、おはなしボランティアの養成・スキルアップ研修が継続的に必要となります。また市民健康課、こどもみらい課との協働事業なので、連携して、事業をより充実させていく必要があります。
- 子育てサークルや子ども会館・子どもの家など様々なグループから依頼を受け、訪問サービスを行っていますが、訪問回数も増えつつあります。さらなるサービス拡充に向けて、おはなしボランティアのスキルアップ研修を行っていきます。
- 幼稚園・認定こども園・保育園での絵本の読み聞かせは活発に行われているので、どのようなサービスが読み聞かせの充実につながるのか、引き続き検討していきます。

2. 子どもに関わる施設の充実

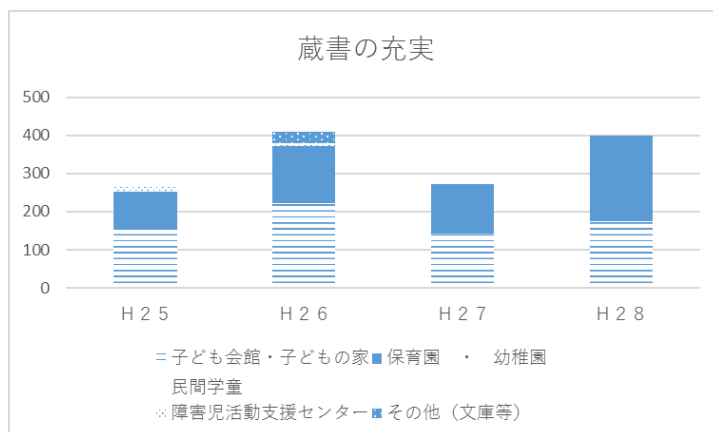
(1) 主な取組み

- ① 子育て支援センターの蔵書の充実（市内の全ての施設での充実）
- ② 子ども会館・子どもの家の蔵書の充実（市内の全ての施設での充実）
- ③ 保育園の図書コーナーの充実（市内の全ての施設での充実）

(2) 成果

【蔵書の充実】

各施設の要望に応じて、寄贈図書等を配布しました。



配布先	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	合計
子ども会館・子どもの家	155	221	143	175	694
保育園・幼稚園	98	152	130	225	605
障害児活動支援センター	12	7	0	0	19
その他（文庫等）	0	30	0	0	30
合計	265	410	273	400	1348

(内訳)

子ども会館・子どもの家…富士塚子ども会館、七里ガ浜子ども会館、小坂子ども会館、深沢子ども会館、長谷子ども会館、大船第一子ども会館、民間学童「晴れ間」「ふかふか」
幼稚園・認定こども園・保育園…腰越保育園、富士愛育園、寺分保育園、アワーキッズ、深沢幼稚園、ピヨピヨ保育園
その他…障害児活動支援センター、稲村ガ崎文庫等

(3) 課題

- 障害児活動支援センターへの寄贈本の配布はできましたが、子育て支援センターは配布できなかったため、ニーズを確認していく必要があります。
- 寄贈本の提供のため、配布計画をたてにくいのが現状です。
- 市内の全ての施設で偏りなく充実させるため、今後も担当課との連携を充実させていく必要があります。

3. 情報の収集と発信

(1) 主な取組み

- ① 保護者に向けて、本や図書館のPRの充実（かまくら読書活動支援センターのパムフレット、図書館だよりの配布など）
- ② 読書に関する情報を「かまくら読書活動支援センター」で積極的に収集
- ③ 市ホームページの子育て支援情報のページなど、インターネットを活用した子どもの読書に関する支援情報のPR
- ④ 読書関連のイベント情報やPRなど、情報発信の場としてケーブルテレビ・FM局などの地元メディアやツイッターを活用
- ⑤ 本の紹介リストを市内各所で配布、インターネットで配信
- ⑥ 図書館司書と幼稚園教諭・保育教諭・保育士が情報交換できる場を設定

(2) 成果

【PRの充実】

かまくら読書活動支援センターのパンフレットを配布
おすすめの本を紹介し、市内各図書館で配布

「なつやすみにおすすめのほん」 毎年小中学生に配布

※ 中学生へは平成 25 年度から配布を始めました。

「よんでみない？おすすめの本」

0～1 歳向け 2～3 歳向け 各 6 冊を紹介（平成 25 年度）

4～6 歳向け・低・中・高学年向け 各 18 冊を紹介（平成 27 年度）



（「よんでみない？おすすめの本」で紹介した本）

【ケーブルテレビ・FM局などの地元メディアからの取材】

平成 25 年 ぬいぐるみのおとまり会（フジテレビ）

平成 26 年 一日図書館員（ケーブルテレビ／鎌倉朝日）

内田麟太郎詩集『まぜごはん』出版記念トーク（鎌倉朝日）

世界のわらべ歌大会（The Shonan Post）

わらべうた講習会（鎌倉朝日）

スペイン語のおはなし会（鎌倉朝日）

平成 27 年 一日図書館員（鎌倉朝日）

平成 28 年 現在集計中

【図書館司書と幼稚園教諭・保育教諭・保育士との情報交換】

平成 27 年度より、幼稚園教諭・保育教諭・保育士向けの研修会が行われています。

その際、情報交換の時間を取り、各施設の状況などをうかがっています。

(3) 課題

- 引き続き、市の担当課と連携したり、様々なメディアに向けて、読書に関する情報やイベント情報をPRしていく必要があります。
- 幼稚園・認定こども園・保育園での読書環境を知るために、現場の幼稚園教諭・保育教諭・保育士との情報交換は必要ですが、忙しい現場の方々と無理なく交流する機会をどのように設けていくかが課題となります。